



～医療生協健文会の職員のみなさま～

メロス通信 不定期便

Vol.19

2024年5月号

発行：地域福祉室



A市役所と懇談しました！

A市で、生活保護利用者に対し「生活保護受給者証」を市役所に受け取りにきた際に、当事者からすれば『半ば強引』に、介護保険課と国保課の窓口で生活保護費から数千円ずつ、滞納した介護保険料と国保料の返済計画を立てさせるということが発生しました。

これについて地域福祉室はソーシャルワーク委員会でも協議し、無料低額診療の運用から今後の生活困窮者支援を考える取り組みとして、市との懇談を行いました。地域福祉室から、市役所の各担当責任者へ無料低額診療の報告、無料低額診療から生活保護へ至った事例のいくつかを紹介し、医師、看護師も出席し意見を交わしました。

市職員より「今回のことを受けて、担当課で今後どういう対応をしていこうかと話し合った。保険料滞納の支払いについての働きかけは止めようと改めて伝えた。本人の滞納や生活困窮状況を把握して自立助長を目的とした対応をしていきたい。」との回答がありました。また「今回は事例提供を受け有難かった。現場の声は胸に響くものがある。後でまた職員間でこの事例を深めていきたい。今後もこのような懇談をしてもらえると嬉しい。」との発言もありました。ソーシャルワーク委員会で引き続き生活保護利用者の権利を守る取り組みと、その要望を関わっている自治体へ届け改善を目指していきます。

Fさんお手製のお花畑



スマイルくらぶはこの度、医療生協の班会へと進化することになりました！

そして地域福祉室は次に「メロスふれんどの会」を虹の家で開催することを考えています。これからも当事者の居場所づくりにチャレンジしていきます。

スマイルくらぶでの一コマ

スマイルくらぶの最高齢のAさんは以前とても物忘れを気にされていました。しかし最近はどうでもないんですよ。先日のAさんのスマイルくらぶでの一コマです。

「言いたいことが、頭の中から逃げて行ってしまうの。だから、娘との会話もしっくりこなくて、ケンカみたいになるの。でも、ここに来てからは娘が私の言いたいことを待っていてくれるのに気づいたの。そうすると私も焦らなくて、娘に話すことができるようになったんよ。娘も、『お母さん、スマイルくらぶに通うようになって楽しそうになったね』って言うの」。

Aさんにとってここはどういう場所か訪ねると「歳を取っても楽しまんね、ここに、わたしの居場所があらねえ！」と笑顔で力強く答えてくれました。その言葉に、スマイルくらぶの参加者一同、みんな嬉しくなりました。

物忘れという症状自体はよくなるかもしれないかもしれませんが、しかし、人と人との関わり方が変われば、物忘れがあっても居心地よく暮らせることをAさんは教えてくれました。そして、スマイルくらぶでの語らいが、場所を超えて家族関係にも良い変化が生じさせることを気づかせてくれました。



☆ 県連ソーシャルワーク委員会より ☆

お金がなくてエアコンを購入できず熱中症でお亡くなりになったA市の手遅れ事例について、診療所を中心に他団体と連帯し、生活困窮者エアコン利用促進の運動に取り組むことを話し合いました。

また地球沸騰化対策として目の前の患者さんに私たちが今できることを考える必要があるのを確認し、県連理事会に提起していきます。